

令和3年度全国学力・学習状況調査の結果について

訂正版

令和3年 10月11日
枚方市立藤阪小学校

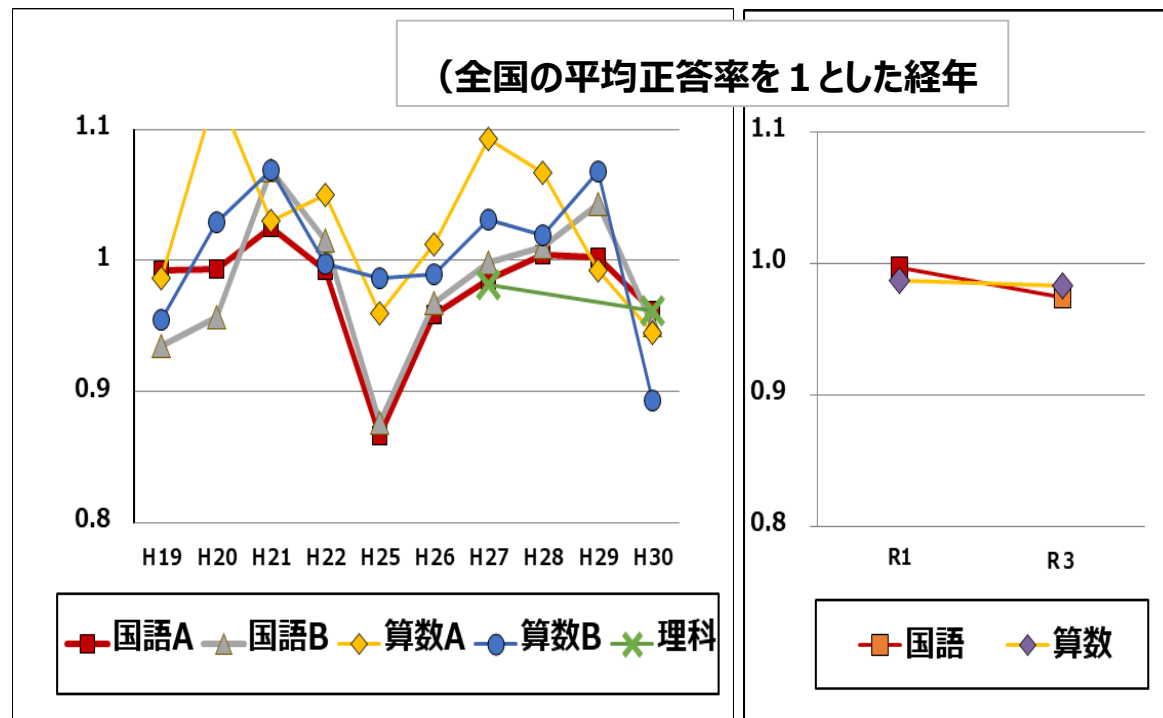
文部科学省が今年5月に実施した、令和3年度全国学力・学習状況調査の結果について、全国を基準とした経年推移等によって、本校の学力や学習の状況を保護者の皆様にお知らせします。結果によると、児童の生活習慣と学力には相関関係があることから、引き続き、保護者の皆様にもご協力をお願いいたします。

【全体概要】

※調査結果について
教科や出題範囲が限られていることから、
全国学力・学習状況調査により測定できるのは、学力の特定の一部です。

学力調査の結果

学力調査結果の中から、本校と全国の経年比較(対全国比)をお知らせします。
(※令和元年度より、A・B問題が一体化されましたので、グラフを分けています。)



<学力調査結果の概要> 学力向上委員会による分析

○国語について

→条件を満たして文章にまとめる問題の正答率が目立って悪く、無解答率も文章で説明するものが多い。また、国語の方が算数よりも無解答率が高く、問題の中盤以降に増えている。中盤に出てくる問題に時間をかけ過ぎ、後半の問題で簡易なものや選択問題でも無解答が出ている傾向がみられる。

○算数について

→グラフや表を読み解いて答える問題の正答率は高く、逆に表を読み解いて答える問題の正答率は高い。また、全体的に図形の問題は簡易なものでも間違いが多くあったので、図形の問題は苦手になっている傾向がみられる。

※本調査は、平成19年度から実施されています。

※平成23年度・令和2年度は中止、平成24年度は一部の学校を対象にした抽出調査のため、掲載していません。

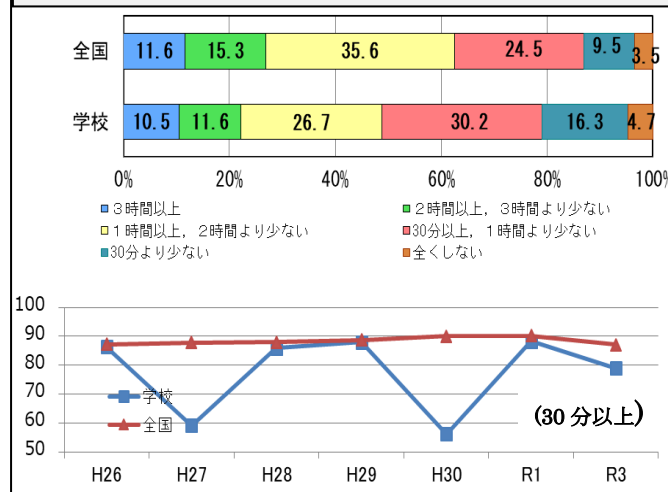
質問紙調査の結果

※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を示しています。
※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。
※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合があります。

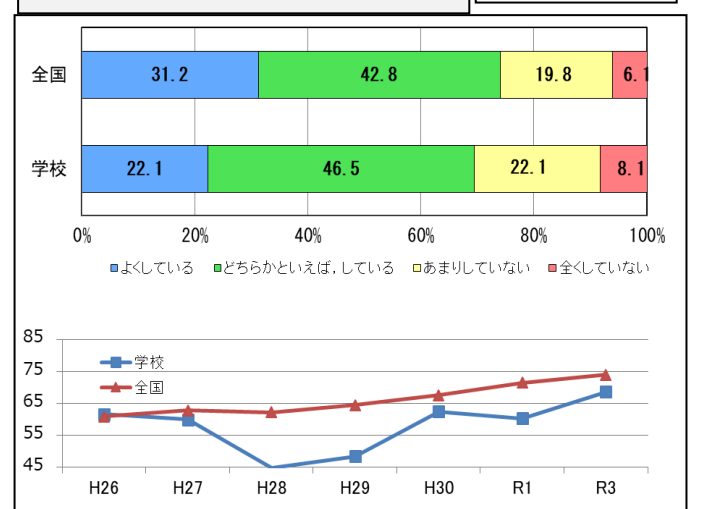
質問紙調査結果の中から、主な項目について、本校と全国の経年比較をお知らせします。

▲ 全国
■ 本校

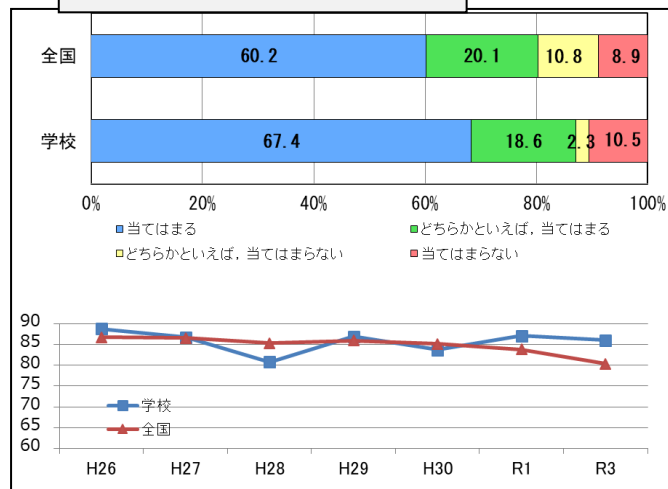
学校の授業以外に普段(月～金曜日)1日当たりどれくらいの時間勉強しますか



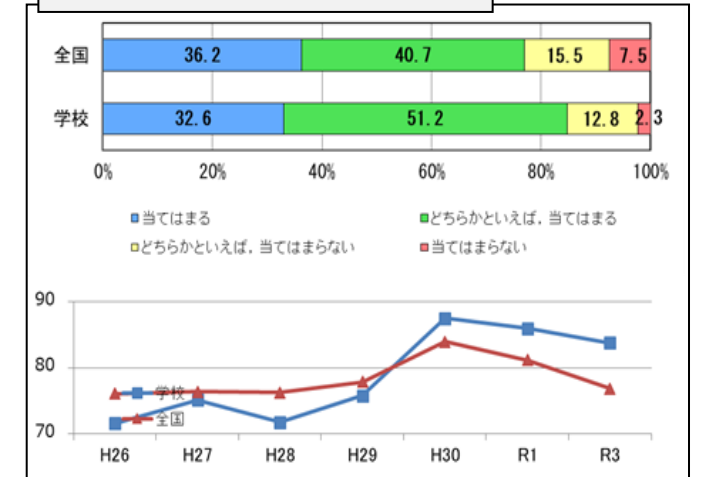
家で自分で計画を立てて勉強している



将来の夢や目標を持っている



自分には、よいところがあると思う



<質問紙調査結果の概要>

- ・学校以外の家庭学習に費やす時間が、年度によりばらつきがあるが、全国平均からみて少ない傾向がみられる。
- ・同じく家庭学習における計画性をもった学習については、毎年度かなり全国平均より下回っている。
- ・将来の夢や目標は概ね全体的に高い意識をもっていることがみられる。
- ・自分には良い所があると認識している児童が数年前より高い意識がみられ、自尊心の高まりがみられる。

まとめ

国語・算数の学力面では、大阪府の平均正答率とほぼ同レベルであり、今後さらに授業改善に努めていかなければならない。それと連動し、家庭学習の在り方を根本的に見直し、家庭との連携を強め、家庭学習時間の確保と学校からの家庭学習課題の提供の在り方を学年に応じたスタイルを考え、構築していく必要がある。

【詳細について】

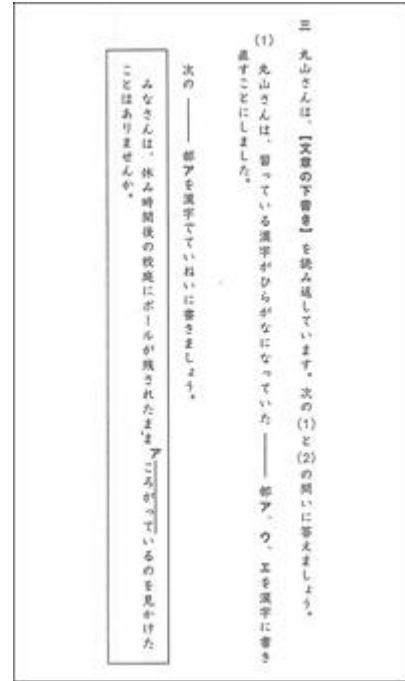
教科に関する調査

<国語>

成果や課題があった設問

【成果】

学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。



	正答率	無解答率
本校	82.6	10.5
全国	78.3	11.6

(考察)

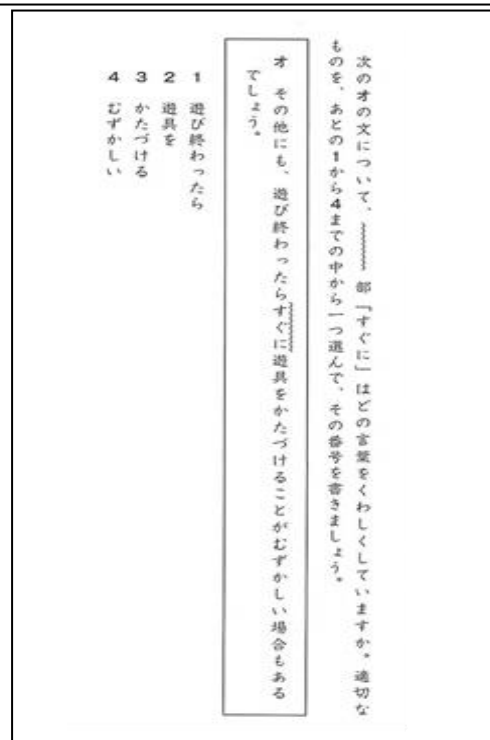
学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと、書くこと、文章の文中で使えるかの設問である。

日々の授業や宿題への取り組み等の指導による成果であると考えられる。

今後においても、ドリル等の反復練習を繰り返すことで力をつけていくことができることを実感させていきたい。

【課題】

文の中における修飾と被修飾との関係を捉えることができる。



	正答率	無解答率
本校	36.0	9.3
全国	43.6	4.1

(考察)

主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解しているかを問う問題である。

課題として、文の中でどの語句に関わるのかを捉えること、文の構成の理解が挙げられる。

文を読む時に、どの語句とどの語句に関係があるか、文の構成をさせる指導を行うことが必要である。

<算数>

成果や課題があった設問

【成果】

速さを求める除法の式と商の意味を理解している。

(3) たけるさんたちは、博物館の次に城へ行きます。城へ行く前に、博物館から城までの道のりと時間をインターネットで調べました。

博物館から城までは1600mで、20分かかります。

たける

ほのか

しおり

私たちが歩く速さと同じくらいの速さなんでしょうか。

私たちは、500mを歩くのに7分間かかりましたよ。

	正答率	無解答率
本校	61.6	1.2
全国	55.8	1.4

(考察)

本設問では、示された除法の式が1分間当たりの道のりを求めるための式であることを理解し、その商を基に、⑦と①のどちらが速いかを捉えているかを問っている。

道のり、速さの問題は一般的に苦手とする児童が多い。本校では、除法の式と商について指導していることの成果であると考えられる。

今後、このような種類を繰り返し取り組むことで、さらなる向上と定着を図る。

【課題】

複数の図形を組み合わせた図形の面積について量の保存性や加法性を基に捉え比べることができる。

(2) 図1の直角三角形が2つあります。

上の2つの直角三角形を使い、同じ長さの辺どうしを合わせると、下の①や②の図形をつくることができます。

上の①と②の図形の面積について、どのようなことがわかりますか。下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましよう。

1 ①の面積のほうが大きい。

2 ②の面積のほうが大きい。

3 ①と②の面積は等しい。

4 ①と②の面積は、このままでは比べることができない。

	正答率	無解答率
本校	60.5	1.2
全国	72.5	1.0

(考察)

複数の図形を組み合わせた図形の面積について、量の保存性や量の加法性を基に捉え、比べることが出来るかを求めた問題である。課題として

①図形の面積を求めるために必要な底辺と高さの関係の捉え方。

②形を基に感覚的に捉える、周りの長さや合わせた辺の長さなどを基に捉えたりして、比んでいる。

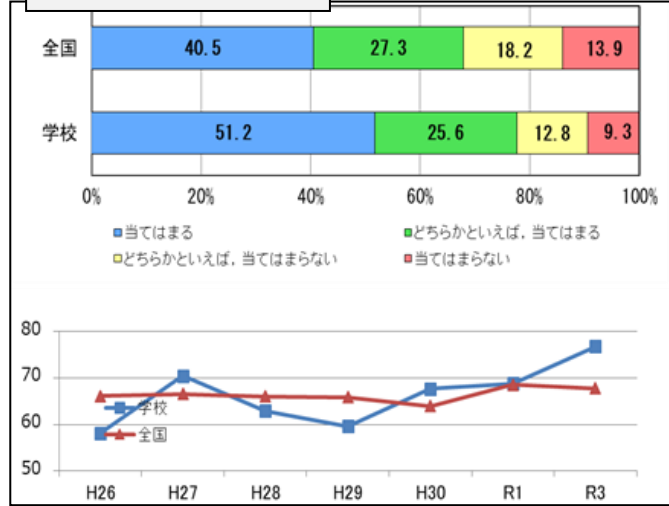
以上の課題について指導していくことが大切である。

質問紙に関する調査

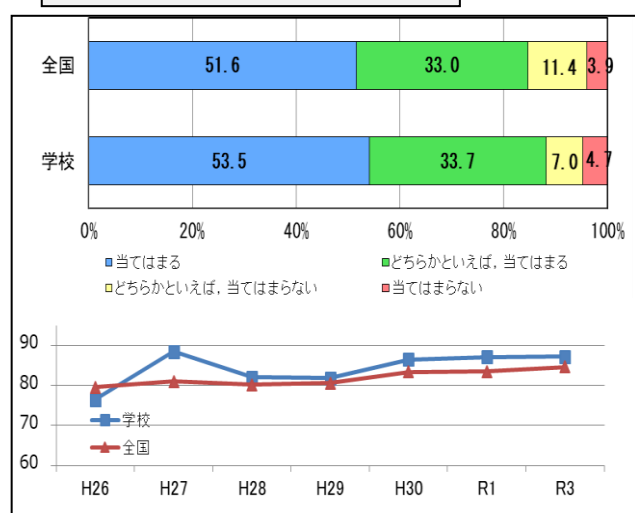
※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を示しています。
 ※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。
 ※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合もあります。

【成果のあった項目】

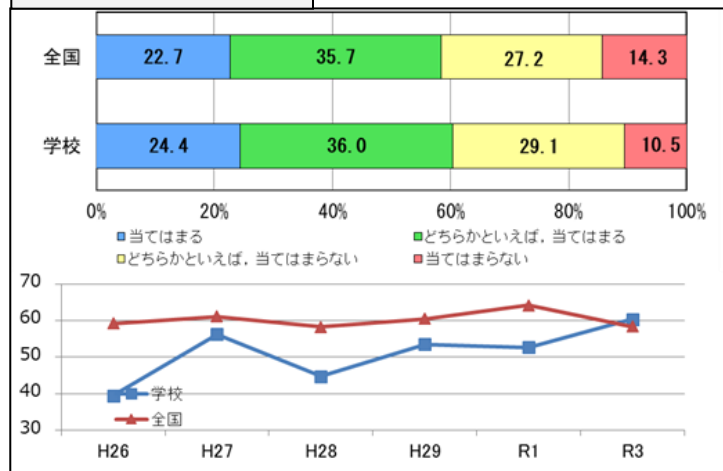
算数の勉強は好きだ。



算数の授業の内容はよく分かる。



国語の勉強が好きだ。



（考察）

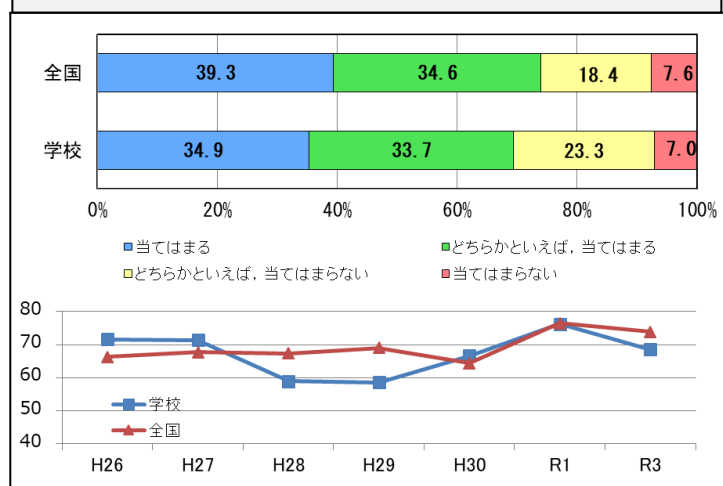
国語・算数ともに「好きだ。」の肯定的評価が全国平均を上回っている。これまで、教員間で行ってきた授業改善の成果が学力に反映されている。

算数については、全国平均正答率には僅かであるが及ばないものの、日々の指導の成果が保たれていると考えられる。

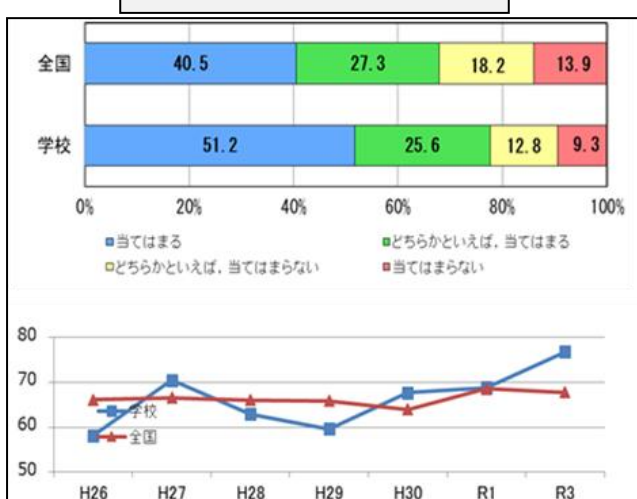
児童が分かる授業の研究・研修を続けることでさらに児童のやる気を喚起させていきたい。

【課題が残った項目】

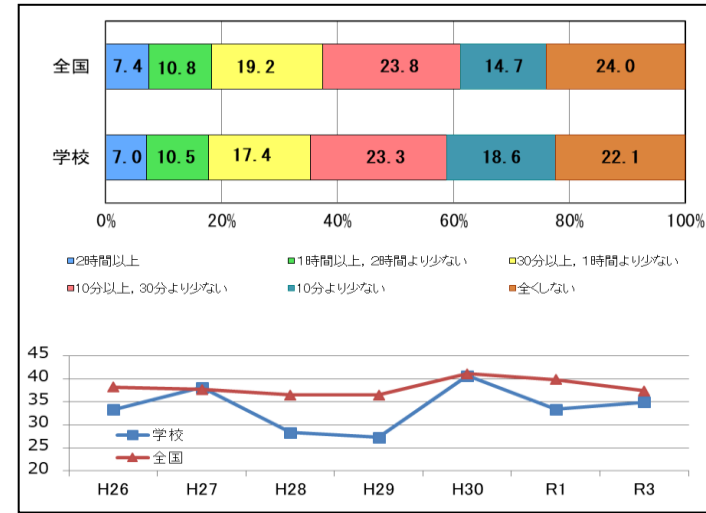
算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないかを考える



国語の授業の内容はよく分かる。



学校の授業以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書しますか。



（考察）

日頃の学習と生活面との結び付けに課題がある。また、国語の授業については教員の授業改善の改題である。

読書時間については、週1回の読書の時間を設定しているが、依然普段の読書量が全般的に少ない状況がある。人間が唯一 AI に勝るものは読解力だと言われている。図書活動や読み聞かせによって、読書の楽しみを実感させていきたい。

分析結果を踏まえて今年度中に取り組んでいくこと

(1) 授業改善について

- 児童のつまずきの原因を把握し、基礎基本の定着を図る。 → 基礎学力の定着。
- 教員間の授業参観や研修等、授業改善に向けた教員の取り組み。 → 教員の授業力の向上。
- 国語・算数ともに『表現力』に課題があり、無回答率に繋がっている。例年、よく課題に挙げられることであり、すぐに成果が見られることではないが、日頃から、自分の考えをまとめる、言葉（口頭）で表現する、文章で表現する授業展開、教材研究を行う。 → 思考力・表現力・活用力の向上。
- 体育科を通じて、“なぜ”“どうして”という気持ちもって取り組む授業展開を図る。
- 読書活動への取り組みにより、読書量を増やし、語彙力の充実を図る。
- ヘルシー文庫を活用した健康づくりと体力向上に向けた取り組みを推進していく。
- ICTを活用した授業展開の探求。

(2) 家庭学習について

- 宿題について、復習に留まらず、予習となる課題も与え、授業において、アクティブラーニングに繋げていく。
- 高学年では算数の自学自習ノート等に取り組む。形式等は自由に取り組ませ、児童の表現力向上に繋げる。
- 日々の少しずつの努力が、良い結果に結び付くという成功体験を感じさせる。

(3) 学習規律について

- 落ち着いた学習環境の継続をめざし、学習規律の再認識、共通理解を図っていく。
- 教師から児童への声掛けや振り返りを行うことで、低学年から学習規律の徹底を図っていく。